

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号 機構 04 - 134
電話番号 03-3332-3334
代表者氏名 加藤 正樹

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹		福祉	H0601051
	②	中野 航太		経営	H2001058
	③	伊瀬 卓		福祉	H1801008
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	トレジャーキッズあやせ保育園				
事業所連絡先	〒	120-0005			
	所在地	東京都足立区綾瀬1-29-9			
	Tel	03-6662-6868			
事業所代表者氏名	田代 まゆみ				
契約日	2024 年 6 月 10 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 30 日				
利用者調査結果報告日	2024 年 11 月 3 日				
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 4 日				
自己評価結果報告日	2024 年 11 月 3 日				
訪問調査日	2024 年 11 月 12 日				
評価合議日	2024 年 12 月 10 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めていただくため、評価の全体像や具体例を用いた分かりやすい資料を作成し、ていねいに説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表により分かりやすく報告しました。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・子ども一人ひとりの発達を保証し、豊かな成長を支えます ・子どもの情緒が安定し、いきいきと自らを成長させることができる環境を目指します ・一人ひとり丁寧に寄り添う保育 ・「明日も来たい」と思える保育園 ・子どもが主体となり遊べる環境
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ・理念や保育方針をもとに子どもの最善の利益を考えて丁寧なかかわりをしていく ・自己研鑽に励む ・保育を楽しみ笑顔で誰とでもコミュニケーションがとれる ・柔軟な思考で臨機応変に対応し保育できる
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ・社会人としての常識を持ち、保育士として自己研鑽に励み、生き生きと保育をする ・子どもの人権、安全、衛生、環境など幅広い知識と情報収集をする ・正直、誠実である

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。
[調査対象世帯数:43世帯(在園児51名)]

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数

51

利用者家族総数(世帯)

43

共通評価項目による調査対象者数

43

共通評価項目による調査の有効回答者数

35

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

81.4

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていますか」との質問に対して、「大変満足」54.3%、「満足」40%、「大変満足」と「満足」を合わせて94.3%の回答率となっています。「どちらともいえない」5.7%、「不満」0%、「大変不満」0%、無回答が0%でした。個別設問では、問11「病気や怪我をした際の職員の対応は信頼できるか」について「はい」の回答率が97.1%で最も高く、問4「保育所の生活で身近な自然や社会と十分に関わっているか」と問17では「はい」の回答率が57.1%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	33	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.3%を占め、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	33	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.3%を占め、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	33	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.3%を占め、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	20	10	5	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の57.1%を占め、「どちらともいえない」が28.6%、「いいえ」が14.3%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	28	1	0	6
この項目では、「はい」と答えた方が全体の80%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は17.1%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	28	7	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の80%を占め、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	32	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91.4%を占め、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	29	5	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の82.9%を占め、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が2.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	33	1	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.3%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は2.9%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	33	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.3%を占め、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	34	1	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の97.1%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	24	7	0	4
この項目では、「はい」と答えた方が全体の68.6%を占め、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は11.4%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	3	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91.4%を占め、「どちらともいえない」が8.6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	31	1	0	3
この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.6%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は8.6%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	2	1	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の91.4%を占め、「どちらともいえない」が5.7%、「いいえ」が2.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	1	0	7
この項目では、「はい」と答えた方が全体の77.1%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は20%という結果でした。自由記述欄に寄せられた意見はありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	20	1	8	6
この項目では、「はい」と答えた方が全体の57.1%を占め、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が22.9%、「無回答＋非該当」は17.1%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく	○非該当
	カテゴリ1の講評		
	保護者には、入園面接や保護者会を通じて法人のビジョンや理念を伝えています 法人の運営理念は、「子ども一人ひとりの発達を保障し豊かな成長を支えます。子どもの情緒が安定し、いきいきと自らを成長させる事が出来る環境を目指します」で、運営方針は、「主体性とていねいな保育」です。法人のビジョン・理念について、職員の理解を深める取り組みとして、方針発表会や朝礼(オンライン形式)などを通じて伝えています。加えて、保護者に対して、重要事項説明書に記載するとともに、入園面接や保護者会などで伝えています。 経営層は園が目指していることについて、朝礼や動画などで職員に伝えています 園長の役割と責任は、「職務分掌」「業務マニュアル」「園長就任にあたって」に記載され、職員会議などで職員に伝えています。園長は、施設運営および保育全般の統括の役割を担っています。また、園長のサポートとして、法人本部のエリア担当が、事務や運営に関する補助を行っています。経営層は、園の目指していることの実現に向けて、方針発表会・朝礼・メール・動画のほか、園に訪問した際に職員にメッセージを伝えています。 重要な案件は職員会議・書面・掲示などで、職員・利用者・地域に向けて伝えています 園内の重要な案件については、リーダー会議で検討・決定しています。案件の内容に応じて本部とも相談をしています。経理や人事に関する稟議については、所定のルールに基づき決裁を得ています。決定した内容と決定経緯は、職員会議や昼礼などで職員に伝えるようにしています。保護者には、園だよりやICTアプリなどで伝え、地域の方に向けては、書面を掲示して知らせています。		

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 カテゴリー2		
サブカテゴリー1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当 評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当 評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
サブカテゴリー2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリー2の講評 アンケートや運営委員会などを通じて保護者のニーズを把握し、運営に反映しています 行事アンケート・保護者満足度調査・運営委員会などを通じて、利用者のニーズを把握しています。その具体的な対応として、今年度より幼児クラスの保育参観を年2回に増やし、乳児クラスでは新たに保育参加を実施しました。また、従業員満足度調査(年2回)や個別面談を通じて職員のニーズを把握し、事務作業の時間を確保できるように記録簿を新たに導入しました。 「職員の事務時間の確保」「行事内容の見直し」を優先度が高い課題として捉えています 区の私立園長会や要保護児童対策地域協議会などにより、地域の福祉ニーズを把握しています。また、福祉事業全体の動向を把握するため、保育ネットワークに参加しているほか、業界誌などを購読しています。以上のように事業環境を分析した結果、「職員の事務時間の確保」「行事内容の見直し」を優先度が高い課題として捉えています。 5年を単位とした中長期計画を基に単年度計画を策定し、職員会議で共有しています 当園では、中・長期の計画を5年単位で策定しています。この計画は園長を中心に作成し、「利用定員の確保」「職員の定着」を重点目標としています。その内容は、年度初めの職員会議で職員へ共有しています。また、単年度の計画は前年度末に策定し、「子どもが主体となり遊べる環境を作る」「笑顔あふれる職場環境を作る」を重点目標としています。計画の進捗状況は職員会議で報告し、必要に応じてリーダー会議で検討を行い、園長を中心に見直しを判断しています。		

3 経営における社会的責任			カテゴリ-3
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリー3の講評

研修を通じてコンプライアンスへの理解を深め、後日学びの成果を確認しています

法人職員または保育職員として守るべき法や規則についてまとめた書類として、「コンプライアンスマニュアル」を整備しています。コンプライアンスには、法令・規則の順守、企業倫理が記載されており、コンプライアンスに反する行為を発見した場合は、窓口に相談・通報ができるようになっています。また、入社時研修や法人全体研修(eラーニング)を実施し、職員の理解を深めています。加えて、自己評価や「理解度チェックテスト」で理解度を確認し、必要が認められた際は、個別面談などにより支援しています。

意見や要望があった際にはマニュアルに沿って、口頭や掲示などにより回答しています

苦情があった際には看護師が受け付けし、園長が解決にあたっています。そのような体制や役割について、入園のしおり(重要事項説明書)で保護者に伝えています。意見や要望については「苦情対応マニュアル」に沿って対応し、直接もしくは掲示などで回答しています。職員の子どもに対する適切な関わり方について「虐待対応マニュアル」に示すとともに、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」も活用しています。なお、虐待が疑われる事例が生じた際には、児童相談所や要保護児童対策地域協議会などと連携し対応しています。

地域貢献の一環として、保育体験や出産前教室などの子育て支援に取り組んでいます

ボランティアなどを受け入れる際は、「ボランティア・保育実習生受け入れマニュアル」に沿って、園長・看護師が対応しています。前年度にはボランティアを3名、実習生を6名、職場体験として中学生を4名受け入れました。また、地域貢献の取り組みとして、「ふれあいひろば」を年10回、「出産前教室」を年3回実施しています。具体的な内容として、手遊び・絵本紹介・在園児との交流・沐浴指導・育児相談などを実施し、掲示などにより周知しています。そのほか、地域の一員として、幼保小連携会議に参画しています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
怪我や事故の対応として、緊急時対応ファイルの作成など、対策を強化しています 運営上のリスクとして「怪我・事故時の対応」「園舎の経年劣化」「職員不足」を挙げており、中・長期事業計画書に明示しています。これらのリスクに対する対策はリスクマネジメント会議で検討しています。具体的な取り組みとして、怪我や事故の発生時には園長や看護師が不在の場合でも適切に対応できるよう「緊急時対応ファイル」を作成し、職員が書き込みながら対応できるフローを整備しています。また、園舎の安全性を維持するために床の修繕を実施するとともに、職員不足への対応として法人本部と連携した採用の強化に取り組んでいます。 地震・河川氾濫・火災を想定した事業継続計画を作成し、職員と保護者に周知しています 災害や深刻な事故などに遭遇した場合に備え、地震・河川の氾濫・火災・感染症などを想定した事業継続計画(BCP)を作成しています。対策本部は法人本部とし、計画の見直しは年1回以上実施することを定めています。職員には会議などで共有し、利用者には保護者会や運営委員会などで周知しています。また、事故・感染症・侵入・災害などが発生した際は、事故報告書・ヒヤリハット報告書・保育日誌などに記録しています。その上で発生要因をリスクマネジメント会議で分析するとともに、再発防止策を掲示やICTアプリにより利用者に報告しています。 プライバシーマークの取得や理解度チェックの実施を通じて、適切な管理に努めています 情報の収集・利用・保管・廃棄については、個人情報保護規程に基づいて管理しています。この内容について、情報セキュリティ研修を通じて職員の理解を深めるとともに、年1回「理解度チェックテスト」を全職員に実施しています。また、法人として情報管理の質を高めるためにプライバシーマークを取得し、適切な運用を行っています。セキュリティ対策として、パソコンにはパスワードによるアクセス制限を設けています。さらに、個人情報や機密性の高い文書については、事務室内の施錠可能な書庫に保管しています。		

5			カテゴリー5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリー1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリー2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる			○非該当

カテゴリー5の講評

職員の定着に向けて、福利厚生や有給休暇制度の充実を図っています

園が求める職員像をホームページなどに記載しています。職員の採用は本部が担当し、ホームページ・ハローワーク・求人サイトなどで募集をしています。さらに、インターンシップも実施しています。職員の定着に向けた取り組みとして、家賃補助・選択制退職金制度・GLTD制度などがあるほか、有給休暇については入社時に付与するとともに、時間有給休暇制度や有給積立制度を導入するなど、働きやすい環境が整っています。また、キャリアパスシートに設定されている階層の数は、5階層あり、内容は職員会議や個別面談などで職員へ伝えていきます。

クラスの課題を全職員で共有し、解決することで、保育の質の向上に取り組んでいます

法人研修・園内研修・外部研修を含む研修計画を策定しており、法人研修では園長や主任などの階層別研修に加え、全職員を対象としたeラーニング形式の研修を実施しています。加えて、昼礼や会議では意見交換を行い、直近ではリーダーの発案により「今、解決したい事」用紙を作成し、各クラスの困り事を共有しながら園全体で解決を図ることで、サービスの質の向上につなげています。さらに、「保育のスキルアップを考える会」を立ち上げ、「安全・健康・食育・保育」などをテーマにクイズ形式で学びを深める機会を設けるなど、工夫しています。

職員の就労環境や意向を定期的に把握し、働きやすい職場づくりに努めています

人事評価は、人事評価表を基に年2回(上期・下期)実施し、賞与に反映しています。人事評価表では、等級に応じた職務行動評価項目が定められており、職員が自己評価を行い、1次評価として園長、2次評価者として本部が評価をしています。また、年2回従業員満足度調査を実施し、職員の意識ややる気を把握するとともに、メンター・チューター制度、本部による面談など職員のフォローを行っています。そのほか、法人内の系列保育園の職員と交流する機会(職員交流会)を持つことで、職員同士のつながりを持てるよう配慮しています。

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 前年度は「保育の質の向上」を重要課題の一つとして掲げ、その解決に向けて「職員が共通理解を持つこと」を目標に設定しました。これに対し、1～2年の期間を設け、園長が講師となって園内研修を実施し、全職員が参加できるようにグループをいくつかに分けて少人数での研修を行うなどの工夫を取り入れました。その結果、全職員が研修に参加し、共通理解を持つことができ、おおむね目標を達成できたと自己評価しています。さらに、今年度は「トイレトレーニング・食事・睡眠・着脱・安全」などをテーマに継続して研修に取り組んでいます。			
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 「保育の質の向上」を重要課題として、「ていねいな保育・安全・感染症」などをテーマに園内研修を実施しており、非正規職員や派遣職員も参加しやすいように複数回開催する工夫を取り入れています。また、研修時間を30分程度に設定し、各回で要点をまとめて分かりやすく説明することで、効率的に学べる環境を整えています。さらに、今年度は保育の具体的な内容をテーマに設定するとともに、職員が講師を担当することで、講師にとっても学びを深める機会になっています。今後も継続した取り組みを通じて、さらなる保育の質の向上が期待されます。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度において「職員の確保」を重要課題の一つとして掲げ、「正規職員4名の採用」を目標に設定し、法人本部と連携しながら通年で就職フェアや学生アルバイトの募集などの採用活動に取り組みました。特に就職フェアでは、若手職員にも参加してもらい、園の様子を写真とともに説明するなど、工夫を凝らしました。その結果、正規職員の採用には至りませんでしたが、学生アルバイト2名を採用することができました。今年度は、非正規職員の勤務時間を調整して正規職員の負担を軽減するとともに、友達紹介制度を導入することで採用活動を強化し、継続して人材確保に取り組んでいます。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

職員の確保に向けて法人本部と連携しながら採用活動を進めており、就職フェアには園長と若手職員も参加することで、求職者が話しやすい雰囲気を作るなど工夫しました。しかし、就職フェアへの参加者が少ないことなどが要因で、成果にはつながりませんでした。今後は引き続き採用活動を継続するとともに、職場環境について情報発信を強化することを検討しており、採用の成果につなげていくことが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当	
サブカテゴリー1の講評			
ホームページの動画やブログ、見学者用リーフレットなどで園を紹介しています 園の情報提供媒体として見学者用リーフレットを発行し、「保育園概要・保育理念・デイリープログラム・年間行事予定」などを紹介しています。ホームページには「保育の特色・ブログ・紹介ムービー・園長や職員からのメッセージ・特別保育」などのコンテンツを掲載し、ブログは月に1回程度更新して日々の園の様子を伝えています。 区のホームページや窓口などからも、情報を入手することができます 園の情報は行政や関係機関に提供しており、足立区認可保育園一覧には開所時間・定員・園庭の大きさ・保育や施設の特徴・年間行事・園からのメッセージなどが掲載されています。また、区の窓口などの園外施設を通じて地域へ情報を発信しています。そのほか、外国語（英語・中国語・韓国語）の資料として、区の「認可保育所・区立認定こども園通所のしおり」があります。 保護者の負担を考慮し、見学は随時希望日に個別対応しています 見学は随時、保護者の希望日に個別対応しており、主に園長または看護師が対応しています。その際、「ていねいな保育」や「負担の少ない保護者参加の行事」など、園の特徴を分かりやすく説明しています。また、「ふれあいひろば」（保育所体験）の場面でも保育内容を紹介しています。			

サブカテゴリ-2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
入園前の個別面談時に資料を手渡しし、保護者の意向も確認しています 入園が決まった利用者には、重要事項説明書・家庭状況調査票・生育歴・予防接種の記録・アレルギー調査票・慣れ保育カレンダーなどの資料を用意し、入園前個別面談時に保護者へ手渡しています。入園説明会は毎年3月の第1土曜日に開催し、離乳食各期の食事サンプルを展示するなど、保育内容を分かりやすく伝えています。また、サービス内容やプライバシー保護については重要事項説明書同意書で確認し、同意を得ています。さらに、サービス内容に対する保護者の意向を入園前個別面談で把握し、新入園児面接シートに記録しています。 慣れ保育期間を1～2週間を目安に設定し、子どもに合わせた保育を行っています サービス開始にあわせて、アレルギーや既往歴など子どもの健康状態を「生育歴」で把握し、入園前の生活状況についても2週間分の記録提出を求めています。その上で、子どもの不安やストレスを軽減できるよう保護者と相談し、1～2週間の慣れ保育期間を設定しています。期間中は給食や睡眠などの保育を子どもに合わせ、使い慣れたタオルの持ち込みを受け入れるなど、安心して過ごせるよう配慮しています。また、担任と保護者が保育内容を共有することで、保護者の理解や安心を深めています。 退園・転園の際にはアルバムや作品をプレゼントし、訪問を歓迎すると伝えています 卒園前に退園や転園をする園児には、アルバムや作品をプレゼントしています。転園先には必要に応じて情報を提供し、園児の情報を引き継いでいます。また、退園・転園児にはいつでも来園してよいことを伝え、継続的に支援しています。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ-3の講評		
連絡帳やICTアプリを活用し、保護者と子どもの様子を共有しています 子どもの心身状況や生活状況を把握するため、全クラスで毎日連絡帳を取り交わしています。生育歴・アレルギー調査票・家庭状況調査票も作成し、ICTアプリで管理しています。支援を要する子どもについては、保育日誌に個別の記録欄を設けています。個別の保育目標は「児童票」や「月案個別指導計画」に記載し、家庭や保護者の個別のニーズ・支援方針は、新入園児面談シートや個人面談記録に記録しています。児童票の記入頻度は0歳児は毎月、1・2歳児は隔月、3歳児は3カ月ごと、4・5歳児は5カ月ごとに集約しながら記録しています。		
指導計画は、保護者からの課題と対策を反映するなど、随時見直しています 「全体的な計画」は前年度に更新し、「6歳児の成長の見直し」を追加するなど各年齢の成長のめやすを再評価しました。それに基づき、年・月・週を単位とした各年齢ごとの指導計画を作成しています。指導計画の作成にあたっては、「家庭で動画やゲームで遊ぶ」「就寝時間が遅い」といった課題を把握し、そのような状況に対して「保護者会やお便りで動画やゲームの時間を決めるとよいことを伝える」「年長児には早寝早起き朝ごはんのお便りを配布する」といった対策を講じています。その内容を保護者会で説明し、玄関への掲示やアプリで周知しています。		
日々のミーティングや園内研修などで、子ども一人ひとりに対する理解を深めています 月1回、職員会議を開催し、園長・看護師・栄養士・常勤保育士が参加して子どもに関する情報を共有しています。加えて、リーダー会議・乳児会議・幼児会議・給食会議・ファミリア会議などの定例会議を実施するほか、ホワイトボードを活用した職員ミーティングも毎日行っています。日々の子どもや保護者の状況については「申し送り表」を活用し、昼礼や臨時リーダー会議で情報を共有しています。また、子ども一人ひとりへの理解を深めるため、園内研修ではトイレットトレーニングや離乳食をテーマに、事例を持ち寄り話し合う機会を設けています。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
3歳児クラスから性別で分かれて着替えをするなど、子どもの羞恥心に配慮しています 個人情報については、入園面接および重要事項説明会において説明し、プライバシーの保護に関しても重要事項説明書や同意書で確認しています。また、子どもの羞恥心に配慮し、着替えの際にはパーテーションで目隠しをし、3歳児クラスから性別で分かれて着替えをしています。さらに、性別の違いに関する意識を高めるため、5歳児クラスでは看護師がプライベートゾーンに関する話をしています。乳児については、おむつ交換の場所を決めて対応し、着脱時に全裸にならないよう保育士がそばにつき、年齢に応じた援助や言葉がけをしています。 職員は「子どもの最善の利益を支える4つの柱」などをテーマに学びを深めています 子ども一人ひとりを尊重する姿勢を示すため「子どもの権利擁護マニュアル」や「不適切な保育防止マニュアル」を整備し、年度初めの会議などで確認しています。その際、「子どもの最善の利益を支える4つの柱」などをテーマに学び、クイズ形式で掲示するなど、職員の理解を深める工夫をしています。また、行事アンケート・保護者会・保護者満足度調査・個人面談などを通じて、日常的なサービスに対する保護者の意向を確認しています。そのうえで、必要に応じて仕事が休みの日の預かりなどにも柔軟に対応しています。 虐待防止研修やセルフチェックリストの活用を通じて職員の意識を高めています 虐待や育児困難などの事案が発生した場合は、「虐待防止マニュアル」に則り対応しています。職員は、虐待防止および適切な対応に備え、園内研修でマニュアルの確認を行っています。また、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を全職員に実施し、自らの行動を振り返る機会を設けています。さらに、虐待に関するニュースが報道された際には、会議や昼礼、掲示を通じて情報を共有し、職員の意識向上を図っています。			

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(○○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(○○)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
法人・園・自治体が作成するマニュアルに基づき、サービスの質の標準化に努めています 業務の標準化を図るため、法人として「保育内容」「安全・リスク」「衛生・健康」「給食」「地域」「情報・ハラスメント」に関するマニュアルを整備しています。さらに、園独自に「防災マニュアル」「避難確保計画」などを作成し、実践的な対応を強化しています。加えて、職員に「ていねいな保育の手引き」や「足立区保育の質ガイドライン」を配布し、職員会議や園内研修で読み合わせを行い、理解の浸透を図っています。業務の実施状況については、園長・看護師・リーダーが中心となり巡回し、確認しています。 「ていねいな保育」の例をグループ園と共有する仕組みづくりに取り組んでいます 業務水準を確認するため、年に1回本部による内部監査を実施しています。そして、運営の質の向上を図るため、定期的にマニュアルを更新しています。年度末には「BCP(事業継続計画)」「防災マニュアル」「感染症マニュアル」などの見直しを行い、必要な項目を追加しました。また、「ていねいな保育」に関する動画を撮影し、グループ園と共有する仕組みづくりに取り組んでいます。さらに、職員の声を受けて内容を見直した例として「園外保育安全マニュアル」があり、その際にクラスごとのマニュアルを作成しました。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している 〇非該当
評価項目1の講評	
コーナーを設置し、子どもが自ら玩具や教材を取り出せるよう収納しています 「ていねいな保育」をテーマに、人・物・場所などの環境を整え、園生活が豊かになるよう保育を実践しています。園舎には、生活の目的に応じた「食事・着替え・お昼寝」のコーナーを設けるとともに、遊びの種類に応じて「ままごと・絵本・ブロック・お絵描き」のコーナーを設置しています。また、子どもが自ら玩具や教材を取り出せるよう、棚は子どもの身長に合わせて設置し、収納場所には写真を貼るなどの工夫を施し、片付けがしやすい環境を整えています。 ネイティブ講師による英会話教室など、異文化に出会う機会を設けています 思いやりや譲り合いの気持ちを育むため、散歩や園内行事を通じて異年齢交流を行っています。また、海外の文化に親しむ機会として、ネイティブ講師による英会話教室を取り入れ、英会話を通じて世界各国の文化や価値観・生活様式の違いを学ぶ機会を設けています。一方、国内各地の文化に出会う機会として、毎月19日の献立に郷土料理を提供し、食を通じて地域の特色を感じられるようにしています。さらに、年齢や性別など互いの違いを理解することを目的に、保健指導を実施しています。 玩具や遊びを工夫して、配慮が必要な子どもを受け入れる環境を整えています 配慮が必要な子どもを受け入れる際は職員を多く配置し、玩具や遊びに配慮しながら環境を整えています。また、園内研修を通じて職員の理解を深めるとともに、専門機関と連携し、心理士の助言を受けながら適切な支援に努めています。子ども同士のけんかやトラブルが発生した際は、ケガにつながらないよう保育士が必ずそばについて対応しています。低年齢児の保育においては、子どものそばに保育士がつくことでかみつきなどの予防に努めています。そのほか、就学支援の一環として、小学校主催の音楽会に参加し、給食体験もしています。	

2

評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

●あり

○なし

●あり

○なし

●あり

○なし

●あり

○なし

標準項目

1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している

○非該当

2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している

○非該当

3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している

○非該当

4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

○非該当

評価項目2の講評

降園時には子どもの成長した姿を伝えることで、喜びを分かち合うようにしています

全クラスで連絡帳を毎日取り交わし、ICTアプリを活用して保護者と情報を共有しています。登園時には、子どもの体調やお迎え時間を保護者に確認し、必要な情報を送り表に記録して職員間で引き継いでいます。連絡帳には、1日の様子・午睡時間・食事量・排便などを記載し、要点を簡潔にまとめるようにしています。質問があった場合は、園長に相談のうえ、連絡帳に記載するか口頭で説明を行っています。降園時には健康状態を対面で報告するとともに、成長した点などポジティブな内容を伝え、保護者と共に喜びを分かち合っています。

基本的な生活習慣を無理なく身につけられるよう、家庭と連携して指導しています

子どもの発達段階に応じた支援の方法は、「全体的な計画」・年間指導計画・月案指導計画・「足立区保育の質ガイドライン」などに基づいています。具体的な取り組みとして、食事指導では「キャベツちぎり」や「おにぎりづくり」など、年齢に応じた食育活動を実施しています。また、排泄指導では、1歳児から便座を座ることを試み、保護者と排泄間隔を共有しながら、個々の発達状況に合わせた支援を行っています。着替えの際にはパーテーションを使用し、幼児クラスでは男女別に行うなど、プライバシーに配慮した環境を整えています。

5歳児は就学に向けて午睡をなくし、その日の活動を主体的に決めています

午睡時間は、0歳児クラスが11時30分～14時30分、1・2歳児クラスが12時～14時30分、3・4・5歳児クラスが13時～14時30分と設定しています。寝具については、0歳児には通気性の良い布団を使用し、1歳児以上はコットやバスタオルを使用しています。午睡時間に眠れない子どもがいる場合は、5歳児室や各保育室のコーナーで過ごせるよう配慮しています。また、5歳児クラスでは就学に向けて、秋口から徐々に午睡時間をなくしています。その際、子どもたちが主体となってその日の活動を決めています。

3

評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

●あり

○なし

●あり

○なし

●あり

○なし

●あり

○なし

●あり

○なし

●あり

○なし

標準項目

1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている

○非該当

2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している

○非該当

3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している

○非該当

4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている

○非該当

5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている

○非該当

6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している

○非該当

評価項目3の講評

子どもの主体性を育むために、子どもたちで話し合う機会や集団活動を取り入れています

子どもが主体的に活動できるよう、遊びに応じたままごと・絵本・ブロック・お絵描きなどのコーナーを設けています。集団活動として英会話教室や幼児算数講座を実施するほか、朝の会では運動会の内容・散歩の行き先・ゲームなどについて子どもたち自身が話し合う機会を設けています。意見や希望が通らなかった子どもには、次の機会に意見が通るように話をするなどの配慮をしています。また、子どもが自分の気持ちを調整できる力を身につけられるよう、朝の会や幼児集会を行い、ルールのある遊びや絵本の読み聞かせを取り入れています。

4・5歳が発表会で手話を披露するなど、いろいろな表現活動に挑戦しています

子どもが言葉に興味を持てるよう、絵本やかるた・カードを使った遊びを行っています。その際、保育者の見える場所で実施し、一緒に遊んで楽しさを共感するなどの配慮をしています。また、身体を使った表現力を育む機会として、体操・ダンス・リズム遊びを取り入れ、音楽を通じた表現力の育成として季節の歌や手話を実施しています。さらに、描画・造形を通じた表現力の育成として、粘土・スライム・はじき絵・マーブリング・スパッタリング・野菜の描写などを行っています。

散歩や園庭での戸外活動を通して、自然にふれ身体を動かしています

週に3～5回程度散歩に出かけ、公園や児童遊園などを訪れています。公園や散歩の途中では、虫探し・鬼ごっこ・ボール遊び・遊具遊びなどを楽しみながら過ごし、季節の植物や鯉・鴨・亀などの生き物に出会う体験も大切にしています。秋にはお弁当持ちの散歩も企画しています。また、園庭ではボール・タイヤ・砂場・コンビカー・縄跳びなどの遊びを楽しむとともに、小松菜やあさがおなどの植物にふれる機会を設けています。なお、動物アレルギーの子どもに配慮し、生き物は飼育していません。

21 / 26

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目4の講評			
夏の「お泊まらない保育」、秋の「遠足」は、子どもに内容を決めてもらっています 子どもの成長を発表する「運動会・発表会・クリスマス会」、季節や文化・伝承に親しむ「子どもの日の会・なつまつり・クリスマス会・お餅つき会・節分・ひな祭り会」などの行事を行っています。加えて、5歳児クラスでは19時までお泊り保育のように過ごす「夏の思い出」を催し、カレー作り・宝探し・探検などを楽しみながら特別な1日を過ごしています。みんなで協力し、やり遂げる喜びを味わえるよう、行事のプログラムは子どもの声を反映させるようにしています。行事後には描画やアルバムで振り返りを支援しています。 行事については、年間行事予定表や保護者会などでお知らせしています 行事の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るため、4月1日に年間行事予定表を全園児に配布しています。また、行事ごとの目的は保護者会や園だよりで伝えています。保護者が参加・見学できる行事として、保育参観・運動会・発表会を開催するとともに、保護者が参加しない活動についても写真販売・クラスだより・ブログなどを通じてその様子を伝えています。さらに、運動会や発表会などの行事についてはアンケートを実施し、保護者の声に耳を傾けています。なお、今年度は保護者も参加できる形でクリスマス会を実施しました。 誕生会は好きな献立でお祝いし、カメラマンによる記念撮影も行っています 子どもの誕生日は、2カ月に1回、全クラス合同でお祝いしています。職員と誕生児(幼児)による出し物を取り入れたプログラムを実施し、子どもたちに人気のメニューを提供するなど、みんなで楽しめるよう工夫しています。プレゼントとして、手作りの冠や写真と手形を添えた絵本型のカードを用意しています。また、誕生児が主役として喜びを感じられるよう、みんなの前で紹介し、カメラマンによる記念撮影を行っています。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
静の遊びのコーナーやマットなど子どもが落ち着ける環境を用意しています 子どもが安心してくつろげるよう、静の遊びのコーナーを整備し、季節を感じられる子どもたちの作品を飾るなど、落ち着ける環境づくりを心がけています。また、「キャラクターの玩具や絵本は置かない」などの工夫を取り入れています。加配または援助などが必要なクラスには、特に主活動の時間に職員を増やし、支援が行き届くように体制を整えています。さらに、子どもが疲れた際に身体を休められるよう、マットを敷いたくつろぎスペースを用意しています。 延長保育時間には正規職員を必ず配置するなど職員体制を整えています 朝7時～7時29分および夕方18時31分～20時30分を延長保育時間として設定しています。それに合わせて、17時～17時30分に1・2歳児室で合同保育を実施しています。その際、同時時間帯専用の紐通し・井形ブロック・積み木・絵本などの玩具を用意し、落ち着いて遊べるようにしています。補食は誰でも食べられるおにぎりを提供し、夕食は食べやすいメニューに配慮しています。また、延長保育の時間帯には正規職員を必ず配置し、個別で遊べる玩具を用意するなど、職員体制や環境を整えています。			

6

評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している

○非該当

●あり

○なし

2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている

○非該当

●あり

○なし

3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している

○非該当

●あり

○なし

4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている

○非該当

●あり

○なし

5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている

○非該当

評価項目6の講評

食事は子どもが好きなものから自分で食べられるように見守っています

食事は乳児・幼児それぞれの保育室でとれるようにしています。離乳食は1対1、1歳児は2〜3対1、2歳以上は1テーブル4人までとし、保育士の目が届くよう人数配分に配慮しています。また、食事中は子どもが好きなものから自分で食べられるよう見守るほか、職員が忙しく動かないようにするなど、子どもが落ち着いて食べられる環境を整えています。食物アレルギーがある子どもには除去食を用意し、他の子どもと距離を取った専用席を設けています。あわせて、色違いの食器とトレイで配膳するなど、誤食防止にも努めています。

栄養士や調理師が毎日園児の喫食状況を確認し、献立を改善しています

子どもたちが食べやすい食材や献立を重視し、特にビビンバ丼や味噌ラーメンが人気です。栄養士や調理師は毎日巡回し、園児の喫食状況を確認しています。調理・配膳時には年齢に合わせた大きさに食材をカットし、人気のなかった献立は2回目に味付けを変更しています。離乳食には口の大きさに合わせた専用スプーンを使用し、年齢に応じたコップを用意するなど、食器や食具を適切に選んでいます。行事食は見た目も工夫し、子どもたちが喜ぶものを提供するとともに、誕生会では人気の献立を取り入れ、楽しい雰囲気を演出しています。

野菜の栽培や調理体験を通じて食に対する興味・関心を高めています

食育活動では、食材に興味を持ち、食べることを好きになる機会を大切にしています。具体的な取り組みとして、毎月「食育の日」を設けて郷土料理を提供するほか、園で栽培した小松菜をサラダなどの料理に取り入れています。また、三色食品ボードを玄関に掲示し、栄養に関する知識と関心を深めています。調理体験は、2歳児クラスからラップおにぎりや野菜の皮むきを経験し、5歳児クラスではカレーライスやゼリーなどの調理を行っています。さらに、仕入先業者による食育の出前授業も実施しています。

7

評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評価

標準項目

●あり

○なし

1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している

○非該当

●あり

○なし

2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている

○非該当

●あり

○なし

3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている

○非該当

評価項目7の講評

健康や安全に関心を持てるよう、防犯・交通安全教室や保健指導を実施しています

子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、各種訓練を実施しています。毎月の防災訓練では、防災頭巾のかぶり方や避難靴の履き方を学んでいます。また、警察署の協力による防犯教室や交通安全教室を実施しています。健康面では、看護師による保健指導を行うとともに、歯科衛生士による講義を実施しています。さらに、散歩前や活動前にクラス担任から約束事を確認し、事故や怪我の防止につなげています。

内科検診や歯科検診で子どもの健康状態を把握し、必要に応じて薬を預かっています

子どもの健康状態を把握するため、嘱託医による0歳児健診を毎月実施しています。内科健診は7月と11月の年2回、0歳児の歯科健診は7月に実施し、全園児に対する歯科健診は年1回行っています。与薬については基本的に実施していませんが、熱性けいれんや食物アレルギーの場合は、与薬指示書・与薬依頼書・生活指導管理表を提出した上で薬やエビデンを預かっています。また、毎月保健だよりを発行し、感染症や起こりやすい事故について紹介しています。さらに、看護師が保護者会に出席し、年齢に応じた悩みや対策について説明しています。

保護者会では、年齢に応じた悩みや対策について講義する時間を設けています

職員は、感染症の流行やSIDS(乳幼児突然死症候群)の予防に向け、消防士による蘇生法研修や看護師による園内研修に参加しています。感染症が発生した場合は、一斉メール配信や登降園時の口頭説明により保護者へ情報提供を行っています。加えて、SIDS対策として午睡中のチェック時間を年齢ごとに定め、午睡チェック表に記録しています。日々の健康状態は連絡帳・登園時・午睡明けに必ず確認し、必要に応じて回数を増やしています。これらの取り組みについては、入園時の説明や重要事項説明書で保護者へ伝えています。

23 / 26

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
保護者の言葉に耳を傾け、運動会や保育参加・参観の実施方法を見直しました 保護者の言葉に耳を傾けることを基本方針とし、対応にあたっています。具体的な接遇方法については「保育の心構え」を整備し、入社時研修や職員会議を通じて職員の理解を深めています。また、保護者の子育てや就労状況に配慮した支援を行うため、就労証明書や家庭状況調査票を活用し、状況把握に努めています。さらに、行事アンケート・保護者会・保護者満足度調査・個人面談を通じて、日常的なサービスに対する保護者の意向を確認しています。それに基づき、運動会や保育参加・参観の実施方法を見直しました。 個別面談や運営委員会を開催し、保護者ニーズの把握に努めています 保護者同士の交流を促進するため、保護者会を年2回開催しています。また、個別面談や運営委員会を通して、保護者と職員の信頼関係を深めています。各会の開催に際しては、4月に年間行事予定表を配布するほか、開催日を複数日設定したり、開始時間を夕方にししたりするなど、保護者が参加しやすいよう配慮しています。さらに、職員一人ひとりを知ってもらうため、玄関に職員紹介を掲示し、日々の送迎時や個人面談・行事などを通じて交流を深めています。 遊びや絵本の紹介、離乳食に関するアドバイスにより、家庭での子育てを支援しています 子育ての考え方について互いの理解を深めるため、保護者会で情報共有を行い、「トイレトレーニング」や「就学前の文字について」などのテーマで意見交換を行っています。また、幼児クラスでは保育参加を年1回、乳児クラスでは保育参観を年2回実施しています。さらに、保護者の養育力向上を目的に、保育参加の際には親子でふれあう遊びや絵本の紹介を行っています。あわせて、看護師や栄養士が0歳児の離乳食に関するアドバイスを行うなど、育児に役立つ情報を提供しています。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
近所のスーパーにお買い物に行くなど、生活範囲を広げる体験をしています 地域資源の活用例として、近隣の商店やスーパーマーケットで買い物を体験しています。具体的には、遠足の際に持っていくお菓子や園庭に植える花の種を買いに出かけています。加えて、年長児が小学校主催の音楽祭を見学するほか、小学生の保育所体験を受け入れています。 区の職員や企業のチャイリーダーなど、さまざまな人に出会う機会を設けています 警察署の協力による防犯教室や交通安全教室を実施しています。また、区のリサイクル教室を招き、ペットボトルなどを使ったごみの分別方法や地球温暖化について学んでいます。今年は、プロ野球チームのチャイリーディングチームが来園し、一緒に踊る機会もありました。保育実習生を受け入れる際は、絵本や紙芝居の読み聞かせ、ペープサートを行ってもらっています。ボランティアや中学生の職業体験の受け入れ時には、ブロック・折り紙・制作活動自などを実施しています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	安心できる環境づくりを進めるとともに、保護者との信頼関係の強化を目指しています	
内容①	「保護者から信頼され、子どもたちが安心して笑顔で登園できる園」を目指し、園の環境整備や修繕に取り組むとともに、保育環境の向上や職員の研修を継続的に実施しています。1年間をかけたこれらの取り組みにより、園児数が増加し、職員と子どもたちとの信頼関係を深めました。また、行事アンケートを実施し、不満の回答に関して園としてできることを検討し、計画的に取り入れています。引き続き、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを進めるとともに、保育の質の向上と保護者との信頼関係のさらなる強化を目指しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル②	「子ども主体の保育」に対する理解の普及と保育スタイルの確立に努めています	
内容②	園長をはじめ多くの職員が交代し、3年前に実践していた「木育」などの取り組みは継承していません。現在は「子ども主体の保育」を目指し、職員に「ていねいな保育の手引き」や「足立区保育の質ガイドライン」を配布し、職員会議や園内研修で読み合わせを行い、理解の浸透を図っています。そして、理念の実現に向けたプロセスを指導計画に正確に反映させていくことを職員に求めるとともに、保育室内の環境構成においてコーナー設定の充実を推奨しています。そのような方針に対する理解の普及と保育スタイルの確立に努めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	理解度テストなどを活用し、研修の理解度や習熟度を確認する仕組みを導入しています	
内容③	研修計画には、法人研修・園内研修・外部研修が含まれています。法人研修では階層別研修に加え、全職員を対象としたeラーニング形式の研修を実施しています。また、全職員を対象に「トイレトレーニング・食事・睡眠・着脱・安全」などをテーマに園内研修を実施し、保育の質の向上に取り組んでいます。さらに、コンプライアンスや個人情報の取り扱いに関する「理解度チェックテスト」や「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、研修内容の理解や習熟度を確認する仕組みを取り入れています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが個性や主体性を発揮できるよう、玩具・教材の充実を図るとともに、遊びのコーナーやプログラムを選択できる環境を設けています
	内容	保育の方針を「一人ひとりに丁寧に寄り添う保育で子どもたちの成長を見守ります」と掲げています。また、園長からのメッセージをホームページに掲載し、子どもたち一人ひとりの「個」を大切に、愛情をもって寄り添っているに関わることを重ねて強調しています。その保育の具体的な特色として、「異年齢保育」「遊びの環境」「手作りおもちゃ」を挙げています。そして異年齢交流を行う際に、3歳児クラスでは体操、4歳児クラスでは実験など異なるテーマのプログラムを設け、子ども自身が選んで遊ぶことができる日も設けています。
2	タイトル	英会話教室や郷土料理、プライベートゾーンに関する話などを取り入れて、子どもが多様性を理解する基礎的な体験を支援しています
	内容	海外の文化に親しむ機会として、ネイティブ講師による英会話教室を取り入れています。そして、外国籍の子どもがいる場合はその出身国の写真をクラスみんなで見るなど、世界各国の文化や価値観・生活様式の違いを知る機会を設けています。また、毎月19日を「食育の日」を設けて、「にらせんべい（長野県）・納豆汁（山形県）」などの郷土料理を提供しています。さらに、性別の違いに関する意識を高めるため、5歳児クラスでは看護師がプライベートゾーンに関する話をしています。地域や性別による違いを理解する基礎的な体験を支援しています。
3	タイトル	「今、解決したいこと」用紙を作成し、クラスの困りごとを共有しながら解決策を話し合うことで、サービスの質の向上につなげています
	内容	昼礼や会議の際に職員同士で意見交換を行う機会を多く取り入れています。直近ではリーダーの発案により「今、解決したいこと」用紙を作成し、各クラスの困り事を共有しています。事例として「部屋の中や廊下で走ってしまうこと」などを取り上げ、職員同士で解決策を出し合うことで、サービスの質の向上につなげています。また、職員自己評価の設問「日頃の気づきや工夫について、他の職員と話し合い、サービスの質の向上に活かす機会がありますか？」において、「はい」と回答した職員が正規・非正規ともに8割を超えるなど、その成果が現れています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	図書館の活用や水遊びの実施など、保育実践において「自然とのふれあいや社会との関わり」の充実を図ることが期待されます
	内容	週に3～5回程度散歩に出かけ、公園や児童遊園などを訪れるとともに、近隣の商店やスーパーマーケットで買い物体験しています。ただし、利用者調査の設問「自然とのふれあいや社会との関わりを目的にした行事や戸外活動の機会が充実していると思いますか？」に対する「はい」の回答率が57.1%でした。これに対し、今後は小学校の図書館の利用を進めるなど、子どもの地域での活動の充実を図ることを計画しています。また、水遊びの実施を期待する声が保護者と職員の双方から上がっており、対策の検討が進むものと思われます。
2	タイトル	「選ばれる保育園」となるべく、リーフレット配布拠点や「ふれあいひろば（保育所体験）」開催日を増やすことを検討しています
	内容	地域内の保育園において多くの定員割れが生じており、本園においても幼児クラスに欠員が生じています。そのような状況を受け、「選ばれる保育園」となるべく広報の充実を図るニーズが高まっています。それに対し、園の情報提供媒体として「見学者用リーフレット」を用意するとともに、ホームページに「保育の特色・ブログ・紹介ムービー」などのコンテンツを掲載しています。そして、リーフレット配布拠点や「ふれあいひろば（保育所体験）」の開催日を増やすことを検討しています。ブログの更新頻度も、より一層高めていくことができると考えられます。
3	タイトル	行政主催の研修やキャリアアップ研修を積極的に活用することで、職員一人ひとりのスキルアップを図っていきたくと考えています
	内容	研修計画には法人研修・園内研修・外部研修が含まれており、法人研修では階層別研修に加え、eラーニング形式の研修を実施しています。また、全職員を対象に「トイレトレーニング・食事・睡眠・着脱・安全」などをテーマに園内研修を行い、保育の質の向上に取り組んでいます。一方で、保育の環境構成・指導計画の作成などについて職員ごとに個人差があることを課題として捉えています。今後は行政主催の研修や専門機関の研修を積極的に活用することで、職員一人ひとりのスキルアップを図っていきたくと考えています。